

1 テーマ名

和牛経営における繁殖肥育一貫経営のメリット

2 目的

肥育農家が、新たに繁殖部門を導入するにあたってのメリットを整理する。

3 調査研究の内容

自家育成牛と市場購入牛の肥育成績を比較し、肥育経営に繁殖部門を導入することが経営的にメリットがあるか検討する。

4 成果

県内の和牛繁殖肥育一貫経営体を調査した結果、自家繁殖牛の枝肉重量(kg)/生後日数(日)は平均 0.5843kg/日、市場から肥育素牛を購入した場合は平均 0.5528kg/日であり、自家繁殖牛の方が1日当たり 0.0315 kg 多い(表1)。

生後から出荷されるまで、28 か月(840 日)、枝肉単価を 2,000 円/kg とすると、 $0.0315\text{kg} \times 840 \text{日} \times 2000 \text{円} = 52,920 \text{円}$ の差となる。

この結果は、今後、肥育農家が自ら繁殖経営を行い、肥育素牛を確保するメリットを示している。

5 普及指導活動における活用方法

肥育経営で、繁殖を検討している経営体に紹介していく。

6 留意事項

なし

表1 自家繁殖牛と購入牛の1日当たり枝肉重の増加量(kg/生後日数)

自家繁殖牛①	0.5843
購入牛②	0.5528
差①-②	0.0315

自家繁殖牛43頭, 購入牛10頭の平均